じゅこう

第65号
（通算405号）

発行元
浄土真宗本願寺派
吉冨山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

盂蘭盆会・門信徒総追悼法要 厳修

八月十五日、ようやくお盆の法要をお勤めすることができました。というのも、令和三年、四年はコロナ禍により中止、再開できると喜んだ令和五年は台風直撃と、寺族だけでの内勤めはしておりましたが、皆さまのお参りをお断りしなければならなかったことはとても残念でありました。

盂蘭盆会とともに門信徒総追悼法要も勤めております。表白の中でお申し込みいただいた故人のご法名を読み上げ、偲ばせていただくとともに、私が仏縁に遇うようにはたらいておられたと味わうことでありました。そして、奈良よりお越しいただいた花岡静人先生のご法話をお聴聞しました。ご讃題には親鸞聖人の御消息より「まず善信（親鸞）が身には、臨終の善悪をば申さず、信心決定のひとは、疑なければ正定聚に住することにて候ふなり。さればこそ愚痴無智の人も、をはりもめでたく候へ。」親鸞聖人は阿弥陀さまのご信心を聞かせていただくと、臨終の善し悪しを問われることもなく、また煩悩具足の私であっても間違いなくお浄土へ往生させていただく身に定まるとお受け取りになっておられます。また、先生はお浄土は私のふるさとですと表現されました。ふるさとというのは自分が生まれ育ったところで、たくさんの思い出があるはずです。けれどお浄土には行ったことがないのに、なぜふるさとと言えるのでしょうか。ここで「浦島太郎」のお話しをされます。亀を助けた浦島さんがお礼にと竜宮城に連れて行ってもらいます。乙姫さまと仲睦まじく三年ほどおられたそうですが、そろそろ懐かしのふるさとに帰りたいと申し出ます。そんなに言われるならと、お土産に玉手箱をもらい浜に帰ってみると、ずいぶん変わった世界であり、誰も知った人がいなかった。あまりの寂しさに玉手箱を開けると、おじいさんの姿に変わってしまうというお話しでした。ふるさとがふるさとでなくなったのです。逆に言うと、懐かしい方々が「おかえり、お疲れさま、よく頑張ったね」と迎えてくれるところがふるさとなんだろう。それがお浄土なのですとお伝えくださいました。

今は亡き方をご縁として私のいのちを見つめ、そして待っててくださるお浄土を思いながら精一杯今を生かさせていただきます。

浄覚寺ヨガ教室

・9月18日（水）
　10時～11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室

・9月24日（火）
　19時～20時半
・参加費1000円

真実信心の行人は
摂取不捨のゆゑに
正定聚の位に住す
このゆゑに
臨終まつことなし
来迎たのむことなし
信心の定まるとき
往生また定まるなり

親鸞聖人『末灯鈔』

御文章に聞く（第58回）

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸浄圓著 本願寺出版社

一切の聖教章（五帖第九通）

当流の安心の一義というは・ただ南無阿弥陀仏の六字のこころなり、たとえば南無と帰命すれば・やがて阿弥陀仏のたすけたまえるこころなるがゆえに、南無の二字は・帰命のこころなり、帰命というは・衆生のもろもろの雑行をすてて、阿弥陀仏後生たすけたまえと・一向にたのみたてまつるこころなるべし、このゆえに・衆生をもらさず弥陀如来の・よくしろしめして・たすけましますこころなり、

今回も御文章（蓮如上人からのお手紙）を味わっていきたいと思います。

今月からは新しい御文章「一切の聖教章」を読ませていただきます。まずは前半部分からですが、大意を書かせていただこうと思います。

浄土真宗の教えの第一義は、南無阿弥陀仏の六字のいわれに尽きます。その例を挙げますと、南無阿弥陀仏とは、南無と帰命すれば、即座に阿弥陀仏がおたすけくださる道理をあらわしています。その南無の二字は帰命と翻訳をされました。その帰命とは、雑行といわれるさまざまな自力の行を捨てて、素直に阿弥陀仏の本願にしたがい、仰せのままに「後生たすけたまえ」と、一筋におまかせすることです。このように自力を捨てて本願におまかせをすれば、阿弥陀仏はそのことをよくご存じになられて、必ずおたすけくださるのです。

「南無阿弥陀仏」とはいったいどういう意味があるのかという六字釈について語られる御文章です。ゆっくりと聞かせていただこうと思います。

仏教語辞典

お釈迦になる

物が壊れてダメになることをあらわす。昔、鋳物職人が阿弥陀如来像を造ろうとして、うっかり釈迦如来像を造ってしまったことからいわれるようになったという。歴史的なうっかりっぷりである。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤　誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

行事案内

日時・九月二十二日（祝）十四時より
行事・秋季彼岸会
法話・石﨑博敍 先生（大阪）
場所・長原 浄覚寺　どなたもぜひお参りください
（なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます）

10月

十月十九日（土）十四時・十九時
永代経法要　法話　若林眞人先生

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。

今年の夏は本当に暑い日が続きました。毎年「今年が一番暑いですね」と言っております。おそらく平均気温も上がってきているのでしょうが、昨年と比べて私も衰えが進んでおります。だからこそ毎年今年が一番と感じてしまうのでしょう。

お盆が過ぎて家族で日帰りプチ旅行に行ってきました。京都の宇治で茶団子を食べ、天橋立を経由して、日本海の夕日ヶ浦海岸で夕日を見てきました。夕日の反対側には大きな虹で感動し、夕日が沈んでいくその向こう側にふるさとのお浄土を感じながら、時間を忘れて見とれてしまいました。

（釋法道）

当山のYouTube「浄覚寺チャンネル」です。ぜひお聴聞ください。